新約全書腓立比書　終

新約全書使徒パウロコロサイ人に贈れる書

一 神の旨に由てイエスキリストの使徒とかれるパウロ及び兄弟テモ
二 テニ書をキリストに在コロサイにをる所の聖徒と忠信の兄弟等に贈る願
ハ
ロ
イ
ニ
ホ
ヘ
ト
チ
リ
ヌ
ル
ヲ
ワ
カ
ヨ
タ
レ
ソ
ツ
ネ
ナ
ラ
ム
ウ
ヰ
ノ
オ
ク
ヤ
マ
ケ
フ
コ
エ
テ
ア
サ
キ
ユ
メ
ミ
シ
ヱ
ヒ
モ
セ
ス
ン

ル 哥三〇十四至十九、哥前二〇十二十三、
チ 哥前二〇十二十三、
リ 羅前四〇一、
カ 哥前四〇一、
ヨ 哥後九〇八、
タ 哥三〇十六、羅五〇三、
レ 羅廿六〇十八、
ソ 徒廿六〇十八、
ツ 哥五〇廿、
ネ 哥六〇十二、
ナ 太三〇十七、
ヲ 來一〇三、
ム 羅八〇廿八、哥一〇廿一、
ウ 來二〇十、
ヰ 哥一〇十、廿二廿三、
ノ 默一〇八、
オ 來一〇五六、
ク 徒廿六〇廿三、

十　爾曹の爲に斷ず祈禱をし且求む願くゝ爾曹靈の予ふる諸の智慧と穎悟とを以て悉く神旨を知十凡の事主を悅べせんが爲りの意に循ひて日を送り凡の善事に因て果を結び且神を知に因て漸に德を增十一また神の榮の權威に循ひて賜ふ諸の能力を得て强なり凡の事よろこびて恒忍かつ久耐十二また我儕をして光にある聖徒の業の分を受るに堪る者とならしめ給ふ父の恩を感謝せんことを十三彼ゝ暗の權威より我儕を救出して其愛子の國に遷し給へり十四我儕ゝの子に由て贖すなゝち罪の赦を得なり十五彼ゝ人の見ることを得ざる神の狀にして萬の造れし物の先に生れし者なり十六ゝ彼に由て萬物ゝ造れたり天に在るもの地上に在るもの人の見ることを得ものの見ることを得ざるもの或ゝ位ある者あるひゝ主たる者あるひゝ政を執もの或ゝ權威あるもの萬物かれに由て造れたり且ゝの造れたるゝ彼が爲なり十七彼ゝ萬物より先にあり萬物かれに由て存ることを得なり十八敎會ゝ彼の身體にして彼ゝ其首なり彼ゝ元始にして凡の事につき長とならん爲に死の中より首

ヤ 西二〇九、約一〇十四、十六、
マ 哥三〇十三至十七、
ケ 哥後五〇十八、
フ 哥三〇一至三、十二、十九、
コ 哥三〇十五十六、
エ 哥一〇四、多二〇十四、
テ 羅十〇十八、
ア 哥後七〇四、哥三〇十三、
サ 哥五〇卅、
キ 哥前九〇十七、哥三〇二、
ユ 羅十六〇廿五廿六、哥一〇九、十、
メ 哥三〇四、哥後一〇九、十、
ミ 哥後四〇三至六、
シ 羅八〇十、

十九　に生れしものなり十九ゝ父すべての德を以て彼に滿しめ其十字架の血に由て平和をおし萬物すなゝち地上に在もの天に在る者をして彼に由て己と和ぐしむる事ゝ是ゝの聖旨に適ふことなれべ也二十夫爾曹ゝもと惡行を行ふに因て神に遠ゝり心にて其敵となれる者なりしが二十一神今キリストの肉の身體をもて其死により爾曹をして己と和がせ潔く玷なく咎なくして己の前に立しめんとす二十二若なんぢら信仰に止り其基を定めかつ堅して福音の望より移さべ如此せらるゝことを得べし此福音ゝ即ち爾曹の聞し所なり且すでに天下の萬人に傳れり我パウロゝの役者と作たり○二十四今われ爾曹の爲に受る苦を喜び又わが肉體をもてキリストの體すなゝち敎會のために其患難の缺たる所を補ふ二十五われ爾曹の爲に神の賜ふ所の職に循ひ此敎會の役者となりて徧く神の道を傳んとす二十六この道ゝ歷世歷代隱れたる奧義なりしが今ゝの聖徒に顯れたり二十七神聖徒をして異邦人の中に顯れし奧義の榮のいかに豐なるを知しめんとし給へり此奧義ゝ爾曹の中に傳

エ 徒廿〇廿七、廿七、廿一、哥後十一〇二、啣五〇廿七、
ヒ 啣一〇十九、三〇七、廿、
モ 西四〇十三、啣三〇十四至廿一、
セ 加四〇十九、啡一〇前、
ス 西三〇十四、
イ 啣一〇十七至十九、
ロ 啣三〇九、後前一〇十二、
ハ 啣一〇八、
ニ 哥前二〇四、
ホ 哥後十一〇十三、啣五〇六、
ヘ 哥前五〇二、
ト 西三〇と至廿二、彼前二〇四ま、
チ

二八 へしキリストなり彼ゝ爾曹の望む所の榮の望なり二八我儕かれを傳へ諸人を勸め諸般の智慧をもて諸人を敎へ諸人をしてキリストの中に完全を得て神の前に立しめんとす二九我これが爲に大能をもて我が裏に働く者の運用に循ひ力を竭して勞する也

二 我なんぢら及びラヲデキヤにをる人々また我が肉躰にある面を未だ見ざる人の爲に我心を勞すること何等あるを爾曹が知んことを望ニわが心を勞するゝ彼等が心愛に因て一になり疑を懷ざる全き穎悟の富を得かつ父なる神とキリストの奥義を知て安慰を得んことを欲する也三智慧と知識の蓄積ゝ一切キリストに藏れある也四誰にても巧言を以て爾曹を欺くこと無らん爲に我これらの事を言り五夫われ肉體ゝ爾曹と離をると雖ども靈ゝ爾曹と偕に居て喜び爾曹が次序あるとキリストを信ずる信の堅固を見なり六爾曹すでに主キリストイエスを承たれば彼に在て行むべしセなんぢら根を彼におき彼に在て德を建また敎を受たる所に從ひて

リ 可七〇八、
ヌ 加四〇三、九、哥前三〇十八十九、來十三〇九、
ル 西一〇十九、割十〇廿、
チ 西一〇十六至十八、
ヲ 西一〇廿八、
カ 羅二〇廿九、
ヨ 羅六〇六、
タ 羅二〇三至五、
レ 徒二〇廿四、
ソ 西三〇一、羅六〇八至十一、
ツ 啣二〇一、五六、
ネ

八 信仰を堅くし此を益大にして感謝せよ○八なんぢら愼むべし恐らくゝキリストに循ゝず人の遺傳と世の小學に循ひ空言なる理學をもて爾曹の心を奪んル九れ神の充足る德ゝ悉く形體をなしてキリストに住り十彼ゝ諸の政と權威の首なり爾曹かれに在て全備する事を得也十一爾曹彼に在て手をもて爲ざる割禮をうく即ち肉の體を脫去ところのキリストの割禮なり十二爾曹バプテスマを受て彼と偕に葬られ亦死より彼を甦らしゝ神の大能を信ずるに因て彼と偕に甦らされたり十三なんぢら前にゝ諸の罪と身に割禮なきとに因て死たる者なり然ども神爾曹をして凡の罪を赦し彼と偕に生しめ十四かつ手にて錄しゝ所の我儕を攻る規條の書すなゝち我儕に逆ふものを塗抹これを中間より取去り釘を以て其十字架に釘たまへり十五また政事を執者と權威ある者を滅し彼等を衆人に示しキリストに由て勝誇れり○十六是故に或ゝ飲こと或ゝ食こと或ゝ節期あるひゝ月朔あるひゝ安息日の事により人をして爾曹を議せしむること勿れ十七此等ゝ皆來らんと

ラ 啣六〇十二、
ム 啣十二〇廿一、
ウ 羅十四〇、
非 來十〇一、

ノ 羅三〇十一、
オ 哥前十二〇十二至廿七、哥四〇十五十六、
ク 西三〇三、羅六〇二至十一、七〇四、六、
ヤ 羅廿九〇十三、太十五〇一至十四、
マ 提前四〇三至五、
ケ 加四〇九、十、五〇一至四、
フ 弗一〇廿廿一、
コ 約壹三〇十五至十六、
エ 彼前一〇三至五、

十八 する者の影にして其眞の形ハキリストに屬り十八謙卑ることゝ天使を拜することゝに因て爾曹の褒美を謟奪んとする人に其褒美を奪るゝ勿れ斯の如き人ハ未だ見ざる者を覬ひ己の心に從ひて妄に誇り首に屬ことを爲ざる也十九全體この首により諸の節と維をもて相助け相聯なり神に育られて

二十 長なり二十もし爾曹キリストと偕に死て世の小學より離たらんにハ何ぞ世

二一 に在て日を送る者の如く人の命と教に循ひ捫る勿れ嘗ふ勿れ觸る勿れと

二二 いふ律法の下になるや此等の禁じたる者ハ凡て人これを用れば滅るなり

二三 此等の規條ハ自ら縱肆にして拜することを爲かつ謙卑かつ身を惜ざるに由て智慧ある者の如く見れども實に尊き者に非ずたゞ肉體の慾を充足する也

第三章

一 既に爾曹キリストと偕に甦りたれば天に在ものを求むべしキリスト彼處に在て神の右に坐し給へり二爾曹天に在ものを念ひ地に在ものを

三 念ふ勿れ三夫なんぢらハ死し者にて其命ハキリストと偕に神の中に藏れ

テ 約壹三〇二、撒前四〇十七、
ア 撒前四〇十七、
サ 羅六〇十三、出五〇三至六、
キ 加五〇廿四、
ユ 羅一〇十八、
メ 詩前六〇九至十一、
ミ 詩四〇廿二至廿一、
シ 詩五〇四、
エ 弗五〇四、
ヒ 利十九〇十一、
モ 羅十二〇二、
セ 加三〇廿八、
ス 弗一〇廿三、
イ 撒前一〇四、撒前一〇二、
ロ 弗一〇四、
ハ 弗四〇廿二、太十八〇廿一廿二、
ニ 太十八〇廿一廿二、

四 在なり四我儕の命なるキリストの顯れんとき我儕も之と偕に榮の中に顯

五 るゝ也〇五是故に爾曹の地にある肢體すなはち奸淫、汚穢、邪情、惡欲およ

六 び貪婪を殺すべし貪婪ハ即ち偶像を拜すると也六此等の事に由て神の怒

七 ハ從ハざる者に臨るなり七爾曹も曩に斯のごとき人の中に日を送りし時

八 ハ此等の惡事を常に行へり八然ども爾曹今ハ凡て此等の惡事および恚憾、

九 忿怒、暴戾をさり謗讟、醜言を爾曹の口より去べし九爾曹已に舊人と其行

十 を脫て新人を衣たれば互に讟をいふなかれ十この新人ハ愈新になり

十一 人を造りし者の像に從ひて知識に至るなり十一此の如きに至りてハギリシヤ人とユダヤ人あるひハ割禮ある者と割禮なき者あるひハ夷狄あるひハ

十二 スクテヤ人あるひハ奴隸あるひハ自主の別なし夫キリストハ萬物の上に在また萬物の中にあり〇十二是故に爾曹神に選れて聖潔かつ愛せらるゝ者と爲たれば慈悲、矜恤、謙遜、柔和、忍耐を衣よ十三爾曹互に容忍をなし若し

十三 人に責べき事あらば之を恕せキリスト爾曹を恕し給へる如く爾曹も然す

ホ 哥前十三〇、詩壹四〇七、五十二、
ヘ 詩四〇、
ト 詩四〇四、五六、
チ 哥前七〇十五、
リ 申六〇六、五九、
ヌ 詩五〇十九、
ル
ヲ 詩五〇廿二、五廿四、
ワ 詩五〇三、
カ 詩五〇廿五、廿八廿九、哥三、
ヨ 詩六〇一、三三、
タ 詩六〇四、
レ 詩六〇五、六七、
ソ 詩六〇八、
ツ 哥前七〇廿二、

十四 べし十四この諸の事の外に愛を加へよ愛ハ衆德の帶なり十五爾曹キリストの
十五 賜ふ平安をして其心を主らしめよ爾曹一體に在て此平安に至るべき召を
十六 蒙れり爾曹恩に感ずべし十六キリストの道をして爾曹の心を存て充足しめ
すべて 諸の智慧により詩と歌と靈に感じて作れる賦とを以て互に相教へ相勸め
十七 恩に感じて心の中に神を讃美すべし十七爾曹の爲所の諸事あるひハ言あるひハ行みな主イエスの名の爲に之をなし彼に由て父なる神に感謝すべし
十八 ○十八妻なる者よ其夫に從ふべし此ハ主にある者の爲べき事なり十九夫なる
十九 者よ其妻を愛すべし苦を以て之を待ふ勿れ二十子たる者よ爾曹すべての事
二十 二親に從ふべし是主の悅び給ふ所なり二一父なる者よ爾曹の子を怒らする
二一 勿れ恐くハ其氣餒ん二二僕なる者よ凡のこと肉體に屬る主人に從ふべし人
二二 を悅ぶする者の如くたゞ眼前の事を務ることなく誠心を以て神を畏れ
二三 て從へ二三なんぢら何事も人に事るが如せず主に事る如く心より之を行ふ
二四 べし二四りハ爾曹ハ主より報賞なる嗣業を受ることを知る者なれば也なん

子 黙許四〇六、
ナ 徒十〇四、
ラ 利十九〇十三、詩六〇九、
ム 路十八〇一、太廿六、四十一、
ウ 詩四〇六、
ヰ
ノ 哥前十六〇九、
オ 詩六〇十九廿、
ク 黙後三〇一
ヤ 詩五〇十五十六、
マ 詩四〇廿九、
ケ 撒前三〇十五、
フ 詩六〇廿一廿二、
コ 門十、
エ 詩十九〇廿九、廿七〇二、門廿四、

二五 ぢら主なるキリストに事ふべし二五不義を行ふ者ハ亦りの不義の報をうく
主ハ偏視たまふ事なし
第四章
主人なる者よ爾曹も亦天に主ある事を知べ義に從ひ公平を以て其
僕を待ふべし○二恆に祈禱をなし怠らずして感謝と共に之を爲べし三ま
三 た神われらに道を傳ふるの門を開き我儕をしてキリストの奥義を語らし
四 め四わが言べき所の如く此奥義を顯さしめ給ハんことを我儕の爲に祈る
五 べし我この奥義の爲に繫れたり五なんぢら機を窺がひ智慧をもて外人に
六 交るべし六爾曹の言つねに恩を用ひ且鹽を以て調和べし然べ如何して各
七 人に答ふべき平を知ん○七わが愛する兄弟忠なる役者われと偕に主に事
八 る僕デキコわが事を悉く爾曹に告知せん八我かれを殊に爾曹に遣すハ彼
九 をして爾曹の事を知なんぢらの心を慰めしめん爲なり九また忠なる我が
愛する兄弟爾曹の中の一人なるオネシモを彼と偕に遣せり彼等この處の
十 事を以て悉く爾曹に告知せん十我と偕に繫るゝアリスタルコ及バルナ

テ 徒十五〇卅七卅八、提後四〇十一、
ア 西一〇七、門廿三、
サ 西一〇九、
キ 提後四〇十一、
ユ 提後四〇十、門廿四、
メ 西二〇一、詩三〇十四、
ミ 羅十六〇五、耶前十六〇十九、
シ 撒前五〇廿七、
エ 門二、
ヒ 徒廿〇廿八、
モ 哥前十六〇廿一、撒後三〇十七、
セ 來十三〇三、

十一 バの甥マコ爾曹に安を問このマコの事に就てハ爾曹すでに命を受たり彼
もし爾曹に至らバ之を接べし十一ユストと名るイエス爾曹に安をとふ割禮
を受し者のうち惟この三人のみ我と偕に神の國の爲に勞けり我かれらハ
十二 由て安慰を得しなり十二爾曹の中の一人にてキリストイエスの僕なるエパ
フラス爾曹に安を問彼ハ恆に爾曹の爲に力を盡て祈禱をなし爾曹が完全
十三 をえ心を堅して立すべての事神の旨に遵ハんことを願へり十三われ彼が爾
曹およびラオデキヤヒエラポリにある者のために甚く心を勞することを證
十四 す十四我儕が愛する醫者ルカ及びデマス
十五 爾曹に安を問十五請なんぢらラオデ
十六 キヤの兄弟等とヌンパス及び其家にある敎會ゐ安を問十六爾曹すでに此書
を讀バ之を亦ラオデキヤ人の敎會に讀せ爾曹も亦ラオデキヤより來る書
十七 をよめ十七アルキポに曰なんぢ主に在て受し所の職を愼みて盡すべしと十八
十八 我パウロ親手なんぢらに安を問なんぢら我の縲絏を念へ願くは恩寵爾曹
と偕に在んことをアメン

新約全書哥羅西書　終